

第 1 回 天王寺区区政戦略会議

日 時：平成 25 年 4 月 24 日（水）

午後 7 時 02 分～午後 8 時 57 分

場 所：天王寺区役所 5 階 502 会議室

○事務局

定刻になりましたので、まだちょっとお見えになられていない方もおられますけれども、始めてまいりたいと思います。

本日は大変お忙しい中、ご出席いただきましてまことにありがとうございます。ただいまから、平成 25 年度第 1 回天王寺区区政戦略会議を開催させていただきます。

ご案内なんですけれども、この戦略会議をちょっと取材ということで報道の方が一社お見えになっておられます。会議の風景等をちょっと写真に撮らせていただくこともございますので、ご了承のほうよろしく願いいたします。

早速ではございますけれども、議題のほうに進めさせていただきたいと思います。

議題（１）としまして、各作業部会からの報告についてでございます。それでは、田中議長よろしく願いいたします。

○田中（英俊）議長

そうしましたら、各作業部会の資料がセットされてますけれども、それに基づきながらご報告をお願いしたいと思います。まず、防犯・防災・地域社会作業部会よりお願いいたします。越村委員ですね、よろしくお願いします。

○越村委員

私のほうから作業部会の報告をさせていただきたいと思います。

前回の会議から 2 回作業部会を持ちまして、その間話を進めてまいりました。資料が皆さんのところに送られたのがきのうだと思うので、その制度そのものについてま

だどうしましょう、説明したほうがいいでしょうか、私がするのも何なんですけどそうしたら、すみません。5 ページにつくった資料がありますので。

○田中（英俊）議長

説明時間 20 分弱でお願いします。

○越村委員

はい、わかりました。

独居高齢者等見守りサポーター事業ということで、まず事業背景からして、高齢化の進展と独居高齢者、高齢者のみ世帯の増加に伴い、地域資源や各種福祉・介護サービスから孤立した高齢者がふえており、外部の目が入らないことで虐待などの問題が深刻化して発見がおくれることで十分な対応がとれないという背景のもとに事業概要ですが、75 歳以上の独居世帯それと 75 歳以上で構成される世帯の全てただし、ここから介護サービス利用世帯、生活保護受給世帯など定期的な外部の見守りが入っているケースを除くということで以前、前の課長さんからお聞きしたときはだいたい 1,200 人ぐらいのケースがあるのではないかとということでお聞きをしております。を対象にしてボランティア、一般の方や学生等による定期的な戸別訪問を実施すると。それでもって医療介護、虐待対応などを要するものの早期発見、早期対応を図るということですね。

で、ボランティアを統括する、まず地域ボランティアリーダーを各地域ごとに地域活動協議会などで選出していただくと。で、各地域で活動するボランティアからの相談に応じるほか、記録、相談などから支援を要するケースや問題を抱えたケースなどについて、区職員、後に出てきます非常勤職員のスーパーバイザーなんですけれども S V というのは、スーパーバイザーに相談をしながら必要な支援が行われるようにつないでいくと。で、その上というのは変なんですけど、ボランティアを統括するスーパーバイザー非常勤職員を区役所に配置する。地域ボランティアリーダーからの相談対応、記録の点検、資料作成などに当たるほか事業の状況に応じて適切な機関に取り

次いだり、みずからボランティアや区職員とともに訪問したりするなど必要な対応に当たるといことです。で、その説明はP 6の図を見るとわかりやすいという感じなんですが、三層になっておりまして、この図では一番上にスーパーバイザーがきております。非常勤2名で、社会福祉士または高齢者福祉の実務経験者等ということで、これは区のホームページでも、もう募集しておられました。週4日で16万ぐらいだったかなと思いますが、それでその方たちがあなたの声をつなげ隊とともに初回訪問すると、後の内容ですけれども、報告の点検やそこに書いてあるもろもろのこともしたりということでみずからも訪問する。あるいは地域ボランティアリーダーからの報告も受けながら必要に応じて適切な支援機関へ取り次ぎ、区の職員などへ相談など対応するといことです。真ん中にその地域ボランティアリーダーが各9地域にあります。で、一番下にボランティアさん、学生も含むといことになっております。

この制度ですね、レジュメのPの1に戻りますけれども、これについてこの資料をもとに作業部会2回にわたって、みなでちょっと提案といとたいそうなんですが、意見をそれぞれに出し合いました。

で、基本一番上に星印をつけてますけれども、やっぱり公的責任としての高齢者訪問を実施して高齢者の実態を把握することってというのは、行政がやるといことは非常に意義深くて画期的な試みでもありますし、その効果もうまくいけばすごく期待できるものだろうと。都市部でもしうまくいったら、全国的にもこうパイロット事業にもなるんじゃないかといことなので、それだけにやっぱり最小限のコストで最大限の効果を上げるためにみんなでどうしたらいいだろうといことで、提案とか意見を挙げていきたいと思っています。

で、その以下がそれなんですけれども、まずスーパーバイザーとかボランティアリーダー、ボランティア、人間的な資源についての課題といことで、まず以下スーパーバイザーをSVと略しておりますがスーパーバイザーとつなげ隊の質の担保、ここが一番大変かなと。対象者が1,200人いらっしゃるといことで、訪問するだけ

だったら計算上可能なのかもしれませんが、やはりそこでその方の状況を把握して、やっぱりどう仕わけしていくかというところが専門性の高い多くの附帯業務もあったり、職務遂行上質的に担保できるのかということで出た意見なんですけれども、天王寺区ってやっぱり中学校が3つあって、3地域、3つのエリアに分かれているので、やっぱり少ないというのはもともとあるんですけれども、やはり3名ぐらいの体制が本当は望ましいんやろうと。

ただ今年、今から言ってそんな無理でしょうし、できればこの1年間の評価に基づいてうまくいきそうであれば、やっぱり1名増員してやっていったほうがいいのではないかと。とりあえず今年度は二人しかいないけれども区役所の常勤職員も専任できるような形で体制をつくってはいかがでしょうかというふうな意見が出ました。

後、つなげ隊がかなり大きな役割を果たすようですが、つなげ隊ももちろん活用できるのはすごくいいと思うんですけれども、浅く広くかかわるのもいいのかもしれない、地域割りでかかわるのもいいのかもしれませんが、できたらやっぱり4名、4名程度というのはすごくアバウトな話なんですけど、専従のチームみたいなのをつくってその事業に精通した人を置いておかないと例えば、SVさんが交代したりとかいろんなことがあったときにも、やっぱりここはこうやで、とわかっている方をきっちりつくっておかないとしんどいのではないかなという意見もでました。

後、ボランティアリーダーの確保と研修ですけれども、これもやっぱり業務の高度さから結構大変そうなのでやっぱり報酬が低いかなと、使命感を持った方が社会貢献という形で応募していただけるといいのだろうけれども、やっぱりもうちょっと補助額も見直してもいいのではないだろうかという意見も出ていました。

後、肝心のボランティアの確保と研修なんですけど、学生や公募のみだけではなく現実的に今地域の活動に携わっておられる方たちも口コミでお願いしますということでその地域の組織としてかかわってもらうのではなくて、地域の活動を実際にされておられる方たちも巻き込んでいくことが大事でしょうねという話。

後、学生さんについては、夏休みとかお休みの期間をメインに考えておられたよう
ですけれども、特に福祉系の学校とかもこの区にはあるようですので、できたら通
年に授業の一環としてかかわってもらえるほうが高齢者にとってもいいのではないか
という意見もでました。

後、より参加しやすくするためにやっぱりボランティアというと少し敷居が高いよ
うなイメージもありますし、そもそもこの事業が見守りサポーター事業なので、見守
りサポーターという形で募集されたほうがちょっと気持ち軽くないかなというような
話にもなりました。

後、次は情報管理の問題です。どこまでその情報を集めはるのかはちょっとまだわ
からないんですけれども、委員さんの中ではやはりこのところが結構大事かなと。
せっかく集めた情報を見守にかかわる人たちが共有できるかどうかが本事業のかなめ
になってくるんじゃないかということで、一元的な管理をするとともに、もちろん個
人情報の保護には配慮が必要ではありますが命にかかわることでもあるので、状況に
応じて開示できるシステムを整備する。やっぱり情報開示は無理よという話になるん
であれば、もし例えば緊急事態が生じたときに、区役所が家族などの関係者に直接連
絡ができるような体制を整備するということが必要ではないかと。例えば、今年から
危機管理課ができたと聞いておりますので、そこを窓口にしながら保健福祉課ですか
ね、それと窓口サービス課ですよ、住民情報把握してはる課。やっぱり連携も不可
欠で、そこでうまく情報のやりとりをしていけるようにしないとやっぱり縦割りのま
まで終わってしまうともったいないなという話が出ていました。

そうしておく、地震とか火災発生時にも活用ができるし防災活動にも一助となる
のではないのでしょうかということでもあります。

次が評価なんですけれども、やっぱり評価がちょっとこう数字とかで行った数とか
把握できた数っていうのはできるんですけれども、これによってどんな効果が得られ
たかという評価がちょっと難しいかなあっているということで、数字も1つの指標としてと

でも重要なのですが、それ以外のこともいろいろあるかと思いますが、こういうこと
って短期間でなかなか効果があらわれないということもありますので、それも考慮し
た評価の方法が必要であるということから、1年後に当然振り返り評価をされると思
いますけれども、その指標づくりに取り組む。ただアンケートだけではなくていろん
なところから意見収集も含めてPDCAサイクルにきっちりおとせるような形にして
いくことで、きちっと発展させていける事業かなというふうに思っておりますし、う
ちの作業部会でも引き続きどうやったらいいかというアイデアを出していこうねっ
ていう話にはなっています。

後、区役所としての実施体制なんですけれども、区役所が行政として主導的に事業
にかかわることがやっぱり、当然今回、今まで地域にお願いしてた分行政でははると
いうことで必要だと思うんですけれども、やっぱり窓口それぞれの役所の窓口や役割
を明確にするとともに、担当課間の連携、先ほど言いましたような情報のこう必要な
ときにやっぱり連携が取れるような仕組みを強めていただきたいなというのと、SV
さんにももちろん、もちろんそうだと思うんですけれども、スーパーバイザーさん
にお任せしきりではなくて総合プロデュースをするのは区役所の職員さんというよう
な体制をきちっとしておかないと絵にかいたもちになっちゃうかなあという感じではあ
ります。

後、プラスして今までどうだったのかちょっとわからないのですが、地域とか後は
市民の方からの気になる人って書いてるんですけれど、例えば、隣のおばあちゃん新
聞がたまったままになってるねんけどとか、最近見かけないとか、現実もうすぐする
と夏になりますけれど、異臭がするとかそういうときにですね、キャッチした情報を
どこにお知らせしたらいいのかというのが、例えば地域の活動をされてたりすると地
域の役員さんに言って行ったりとかはわかるんですけれども、一般の市民の方はなか
なかそこまでっていうのもありますので、2本立てでやっぱり民生地域の見守りシス
テムとはまた別にも通報窓口の明確化とか、あるいはPR、こういうところに連絡し

てくださいねみたいなPRもしていく必要があるだろうと。これももちろん通報窓口といっても区は中心でしょうけども、区だけじゃなくて、今まである高齢者のシステムの中でどこが担うというところもやっていいかなとも思います。

後、各団体システムとの連携ということで、ここもこないだ区長もおっしゃいましたけれども、この事業だけではなくていろんな事業が重層的に高齢者を支えていくという形がやっぱり必要やと思いますので、ほかに今まで通りのところもありつつですね、見守り訪問、多分本人が希望しないという方もたくさんいらっしゃると思います。ほっといてという方結構いらっしゃると思うので、そういう方をやっぱり行政として把握はするんでしょうけれども、やっぱり民生委員さんとか地域から何となくこう外から離れて見守るような体制は引き続きつくっていかなければいけませんし、月に1回程度の1回程度というのはちょっと言い方はよくないんですけれども、月に1回の見守りで孤独死の防止とか発見、早期発見というのはやっぱり難しいでしょうから、やはりそこも含めて民生委員や地域の日常적인見守りはやっぱり必要かと思います。

それとまあ次は、比較的課題の少ない高齢者については地域の元気な方の生きがい結びつけていって予防というところですね、そこにも力を入れるとか、当然ながら課題解決が必要なケースに関しては専門家の関与も必須だなというふうに考えています。

次のページになりますが、基本実施に当たっての提案ということなんですけれども、先ほど言ったように3本柱を立てて重層的にやっぱり取組むことが必要やろうと。で、一つは今回されるサポーター事業の実施と二つ目はやっぱり地域による見守りの輪づくり、今あるものをもっと強くしていくということで、やっぱり活動に地域によって濃淡もあるような話も聞いておりますので、うまくいっている地域の実践例なんかを紹介して、動機づけとなるような、ああ、あそこをこうやるとうまくいくんだな、というようなところを勉強し合える地域活動フォーラムのようなものやってみてはいいかがでしょうかというのも一つの提案です。

後ですね、最後になりますけれども、区内高齢者支援システムの再構築ということで、現在も恐らくいろんな形で区内高齢者関連の会議があると思うんですね、その辺とかサービス事業者連絡会あるいは三師会なんかの会議をやっぱり今ある現存の社会資源の連携を強化して、そこをすくっていけるようなネットワークを緊密にしていくような試みがやっぱり今もあると思うんですけれども、せっかくあるのでそれをもっと活用していくということがまず、それもあるのかなというふうに思います。

最後にはなりますけれども、その区民の命を守るために地域と協働しながらも区が行政として主導的にかかわるといことが不可欠かなあというような意見がでました。

なんですけれども、皆さんからのご意見もってこんなこともあるしそれは無理やでとかいろいろあると思うのでお聞きしたいと、うちの作業部会は割と皆さん今地域の活動をされているような方が多いので、ちょっと視点的にも一般的区民的視点もできたらいただけたらなあという気もします。はい。

○田中（英俊）議長

はい、ありがとうございました。

基本的に今やってる事業をもっとよりよくするためにということの提案が二つというふうに理解してよろしいですね、わかりました。

ただいまの報告につきまして、ご意見ご質問をお願いしたいと思います。私まず質問というか、これは高齢者の方がみずから動くということは全然入ってないのかな。

○越村委員

どうでしょう。

○田中（英俊）議長

例えばですね、高知のある山村だったと思うんですけれども、独居の高齢者の方々が結構多いわけで地域としてもその人たちをどうするかということで、何時から何時に旗を出してもらおうと、その旗が立ってる家は元気で大丈夫ですよとそれで引っ込めずずっと立ってたらおかしい話で、例えば、9時から11時まで旗立っててそれで引

っ込めたら元気ですねと、そうであれば行かなくても大丈夫だなということもありますし、何か高齢者みずから私たちもこの地域の仲間だという意思表示にもなりますし、高齢者みずからが動くような仕組みというのも考えられないかなあというふうにも感じましたので、私の意見として。すみません、ほかに皆さんご意見ご質問等あれば。

○越村委員

当部会の際に出たこれ以外の話であると、見守りポットみたいなんがあるって話ですね。

○飛田委員

象印の出しているポットを配ったのがアイポットっていうポットが出てるんですけども大分前から、あれスイッチ入れたとか全部メールで来るので、そういうものでもどうかと。

○越村委員

あるいは今回、ちょっと斬新な試みで何でしたっけ、クロネコヤマトとか郵便局の類で。

○田中（誠）委員

東北のほうはそうですね。東北のほうやっているとありますね。

○飛田委員

と言うか、もう国からですね月に1回ぐらいね、その郵便を通して自宅へ配るっていうようなことを考えて、そのときに本人に確認して渡せるような何か手段を考えるんだったら郵便局がいいんじゃないかなあという、郵便局だったら割と安心して開けたりしはるし。

○田中（誠）委員

佐川さんでしたっけ、何か東北で組んでやってはりますよね。

○飛田委員

何かやってはりますね。

○田中（誠）委員

行政からお金を出して配達させることで確認する、対面で確認するっていうことをしてはりますよね。

○飛田委員

何かそういうことを含めてどうかなっていうのは部会で意見は出ました。

○田淵委員

それは、物を送るわけですか。

○田中（誠）委員

書面でもいいと思うんですよ。

○飛田委員

書面を考えてますね、あまり大きなのはまたお金もかかりますしね。

○田中（誠）委員

はい、書面だけれどもその郵便よりもプラスアルファで、それ交渉次第なんですよけれども、プラスアルファで料金を乗せることでそのかわり対面でしっかり渡していただくという形も1つなのかなと思います。

○田中（英俊）議長

そのアイポットってのは高いんですか。

○飛田委員

多分1万強はするので、毎月幾らか、だから行政としてというふうではなかなかいえないと思うんですけどもね。

○田中（英俊）議長

そのポットっていうのはどっか情報収集するとか。

○飛田委員

中にピッチが入ってですね、そこから決まったところにただ電源が入るとメールが送られたり。

○田中（英俊）議長

その地域のリーダーのところにいくような仕組みもつくろうと思えばつくれる。

○飛田委員

つくろうと思えば、メールを登録するだけなので。

○田中（英俊）議長

なるほどね、はい。

○飛田委員

一番抵抗はないらしいです。必ずだいたい朝、お年寄りっていうか普通の人は朝お湯を沸かしてというのがあるので。

○田中（英俊）議長

皆さん全部つけるわけにいかないでしょうけれども、東京の我が家は2軒母親の家と並んでいるんですけれども、警備保障会社よく来ます。失敗してボタンを押したりするとすぐ駆けつけて来るっていうことがありました。あれもまた逆に面倒だなということもありますよ、何か近所でねそういう仕組みがあったらお金がかからないでそういう仕組みがあったら、ほかにご意見、ご質問あります。

ここで出すのこういうこともあったけれども、こういう観点で部会としてはやめましたとか、多分、今の予算がかかるし大変だということで入れてないんでしょうけれども、そういうアイデアも報告いただけたらよりその皆さん考えることができるのではないかなと思いますけれども。はい、どうぞ。

○栗谷委員

あと、例えばですね、若い方のボランティアとなると少し構えるということもあると思うんですけれども、世代世代のね、例えば50歳、60歳、70歳ぐらいで各地域で1つのグループをつくって、グループ長みたいなのをつくって、その方に近所の方見てやっていう、そういうちょっとしたブロックブロックでとリーダーをちょっとつくればですね、同世代であればまた、話も通じやすいですし訪問しやすいっていうか、

世間話もしやすいっていうのがありますよね、そういうちょっとした一人一人のリーダー的な格の人を一人務めればちょっとした管理っていうか、負担は少ない歩いて5、6分のところに一人ぐらいつくって行ってもらえばまた少し管理もしやすいんじゃないかと思いますね。

○田淵委員

それは栗谷さんのお話は高齢者のそのリーダーを。

○栗谷委員

そうそう、高齢者の同じ世代ってことね、そうそう世代の中で一人また選んでいただいてちょっと近所の方を見てやっていう、そうしたらまた管理もしやすいんじゃないですかね、一人一人訪問するんじゃなくてその方に聞けばだいたい近辺のことはわかるよっていうぐらいのね、そういうちょっとしたリーダーがいればまた、横のつながりも深くなるんじゃないかと思いますね。

○田中（英俊）議長

老人会館で月1回かお茶を飲んだり、いろんな集まりのあれ全員に声を掛けてるんですよね、そうでもないんですか。

○越村委員

どうなんですかね、でも、サロンですとかですよ、いろいろと地域ごとにね。

○出村委員

そうですね、月1回ぐらいで食事サービスとか喫茶とかそういうなんにだいたい老人の。

○越村委員

そうですね、一応こういろんなところにポスターは貼ってあるんですけども、ご存じない方も結構いらっしゃるかなと思います。

○飛田委員

我々の部会でやっぱり一番問題になったのはね、女の方は割と出て行ってはるんで

すけれども、ちょっと元気な男の人はわしゃ元気やからそんなもんいかんっていう人がやっぱり、これは東北でボランティアしてても、やっぱり向こうでも言われるんですね、男の独居者はそういうところに行かないというね。

○出村委員

恥ずかしいからなんですかね。

○飛田委員

恥ずかしいのか何か知らんけど、わしゃ元気やからそんなもんええという、結局、誰にも言えないでようわからんようになってしまうというのがあるので、そういう人たちは本当どうしようかなっていうのが課題にはなっています。

うちのおやじなんかでもやっぱり介護の認定とかで来ると何かはりきってしまって、わしゃ大丈夫や何でもできるって言うので全然意味ないやんって話で。

○田中（英俊）議長

昔から地域で住んでる人たちはある程度ネットワークがあると思うんですけれども、マンションなんかでも高齢者ひとり住まいってあると思うんですけれども、その手当みたいのは。

○越村委員

だからそれも考えると、やっぱりこの仕組みすごい画期的で期待もできるころだなあというふうには思っています。

なかなか従来、地域の活動で手の届かなかったマンションとか、はい。

○田中（英俊）議長

ほかにご意見、ご意見なかったらもう区役所としては実際取り組んでいる中にいろんなアイデアがあったわけで、また区長の話聞いた後で、また意見質問があればということで、区長からちょっとご説明を。

○水谷区長

ちょっと私のほうから、今皆さんで議論いただいたこと、本当に示唆に富むお話で

したけれども、それを受けてちょっとコメントと、またちょっと実務的なところで細かな部分補足等あれば直接今日は担当者もみえてますので、ご説明させていただきたいと思います。

今ちょうどお話の中にも出てたように、食事サービスと申しまして、独居の高齢者の方中心に地域の会館にお集まりいただいて、お昼ご飯をともにするという取組をやっております。それから、ちょっと話にも出ましたが、ふれあい喫茶のようにおやつやコーヒーを飲みながら茶話会的に交流を楽しむという機会もございます。

しかしながら、そうした集まりに出てこれる独居の高齢者の方ってのは非常にやっぱり限られている部分も一面ではありまして、先ほど飛田委員が言われたように、私も地域の食事サービスに回らせてもらって率直に思うのは、相対的にやっぱり男性の参加率のほうが低いのかなというところです。

じゃあ、そういう食事サービスに来ることができない独居の高齢者は放置していいのかって言えば絶対そういうわけにはいかなくて、やはり孤立死を防止するというそういうことを徹底していくためには、そういう食事サービスに出てこない高齢者の生活状況の確認をどういう形で図っていくかというのが非常に課題という状況でした。

この課題を解決するために、大きく2つの方向性があるというふうに去年考えました。

1つは先ほど飛田委員が言われていたように、そのアイポット等の先進的な技術を使って異常が起きた場合にそれを早期察知して、消防等そういう救急機関に早目につなぐというそういうシステムの構築だったわけでございます。

これらに取組む研究機関ないし、複数企業のほうなど関係者にもヒアリング等させていただいたんですけれども、これさまざまな技術が今研究開発途上にあるわけです。

例えば、人が呼吸するときにその胸部が膨らんだり、縮んだりするわけですが、それをセンサリングして、その凹と凸の動きがとまったときにすぐに救急機関に

つないで消防車が出動できるようにするとそういうシステム等もあったわけですが、まだまだこれも実用化前の段階ということもあって非常にその一機あたりのコストが高くかかるわけですね、安くしていただいてもやっぱり数千万と、そうなったときにやっぱり天王寺区内に独居高齢者が4,000人おられますから、4,000人にあまねくそのシステムの恩恵にあずかせようとした場合にやはりコストベネフィット的に無理があるなというふうに判断しました。

確かにその技術の進歩についてはこれからも行政としてもフォローはしておかないといけない、観察してまいらないといけないわけでございますけれども、結局はやっぱり人の目で生活の安全、状況を確認するというそういうところがやっぱり一番現実的で確実な方法かなという判断になりました。

ということでもう一つの方向性として、今やっぱり地域のほうでその民生委員さん、あるいはネットワーク委員会さんのほうで地域の見守り等やっていただけてますけれども、それももちろん徹底してやっていただけてるんですけども、それらを補完するために、先ほど越村委員にもご指摘いただいた重層的なその見守りのネットワークを確保するという視点から今回の高齢者見守りサポーターを考案した次第です。

ご指摘していただいたポイントについてちょっと私自身が考えるところを申し上げたいんですけども、この1ページからいろいろと越村委員にご指摘いただきました。まずこのSVの2名体制が望ましいか3名体制が望ましいかというところで、中学校区ごとの管理を前提とした場合は確かにおっしゃるように3人体制が望ましいのかなというふうに思っております。これについては今年度やはり運営、運用していく中でその指導的立場に当たるこのスーパーバイザーの適正な人数はだいたいどれくらいだろうねと、どれくらいだったら一番業務が回るのかということをやちょっと確認しながら、こういうご意見をいただいたということ踏まえて考えていきたいなというふうに思っております。

それから、つなげ隊との連携ですけれども、ここは個人的に非常に重要なご指摘か

なというふうに思っております。この後また、私も事務方のほうでもまた検討しないといけないなと思うんですけれども、つなげ隊も約20名程度おりますけれども、その中の4名というか一部を専従化させて、この高齢者見守りサポーターに集中的に取り組んでもらうというふうな仕切りをしたほうがより政策効果が高まるのではないかなというのは非常に納得できる話です。

ボランティアと銘打った理由なんですけれども、これらは厳密に言いますと有償ボランティアといわゆるこれも行政用語ですけれども、最低賃金よりはちょっと下の支払いをしているから、いわゆる厳密な法的に労働には当たらないということで一部ちょっと対価が生じるボランティアということで巻き込ませさせていただくという仕切りにしていますが、これについてもボランティアと言ったほうがいいのか、サポーターと言ったほうがいいのかとどちらが敷居がより低く多くの人に参加していただけるかっていうのは、これはまたちょっと運営の中で確認させていただきたいなというふうに思っていて、現時点で社会福祉協議会のボランティア・ビューローさんのほうにもご協力いただいておりますけれども、まだ募集開始を前にして数多くの問い合わせが来ているというふうに認識しております。

ですから、ちょっとこの春先にまたボランティアのほう募集させていただいて、どれくらいの反応があるのかっていうこともまた踏まえて、こうしたご意見を基にまた、適宜、軌道修正していきたいなというふうに思います。

私ばかりしゃべってすみません。本当にいろいろとご指摘いただいた中で一番私の心をとらえた言葉と申しますが、特に重要なご指摘だなと思ったのが、やっぱりこれは役所も地域も縦割りの構造を改めようというところだと思います。役所もせっかく今越村委員のほうからご紹介いただいたように危機管理課、区民の安心安全にかかわる危機を取り除き対処していくという部署が設けられたわけですから、こうしたところや、また区民の個人情報が一番多く管理している窓口サービス課等とも連携して、より精度の高い安心見守りのネットワークが構築できるように、これはもう本当

に、役所全体で知恵を絞っていかないといけないところかなあと思っております。

また、地域の横の連携をより強化するという点につきましては、この地域活動フォーラム３ページのほうでご説明いただいた地域活動フォーラムという発想は非常に重要なあというふうに思っております。結構、例えば、福祉施設であつたりとか、社会福祉協議会であつたりとか、既に社会福祉に従事している専門家、実務家どうしの意見交換の機会、ないしはその学習の機会というものは行政のほうでも今の状況でも用意してるところはあるんですが、そうではなくてこの見守りサポーターのボランティアに挑戦してみようと思う人たち、潜在的なその社会福祉人と申しますか、そういう方々も対象に、もっと例えば、Aという地域でこういう取組してるけれどもBという地域ではどうですかと、ご提案して率直なその感想なり意見なりをいただくという機会をですね、今年度はこれは本当に考えて実施しないといけないのかなというふうに思いました。

本当に、非常に全国の中でも画期的な取組であるというふうにご評価いただいたことは本当に光栄だと思います。確かに全国を見渡しましてもちろんと足を使って独居高齢者のお宅もちろんその独居高齢者の中には障がいを持っておられる方も含まれますし、中には本当にですね、生きているのかお亡くなりになっているのかわからない方もおられるかもしれないとそういうところに人の目を入れて、ちゃんとしたしかるべき支援につないでいくということは、本当に地道な取組ですけれども、一番の正攻法だというふうに思っております。ですので、天王寺区としても今年度は保健福祉課を中心にこの独居高齢者と見守りサポーター事業を特に重点的に取組んでまいりたいというふうに思っております。ありがとうございます。

○田中（英俊）議長

区長の発言も踏まえてさらに何か意見とか質問とか、はいどうぞ。

○神崎委員

区長とその担当の方がいらっしゃるということでお聞きしたいんですけども、例

えば、この区政会議の1回目か2回目だったと記憶してるんですけども、耐震マットを配るとかそれを講習会でその効果が出たとか出ないとかいう話が出て、確かあの去年の予算で450万とかいう数字を記憶しております。例えば、その予算はその耐震マットを普及したり啓蒙したりするための予算としてその辺のボリュームのお金が計上されてるわけですけども、この見守りサポーター事業をもっと充実すれば、恐らくその予算も吸収されるだろうと。さらにもっと集約したり削減できるだろうと、私は直感的に感じるんですけども、例えば区長として担当の職員として、そういうふうな発想がまずあるのかなのかというところをまずお聞きしたいなと思います。

○水谷区長

ありがとうございます。正確にはたぶん家具固定器具の話をされているんだと思うんです。去年度は家具固定ワークショップという形で、阪神大震災のときの亡くなられた方の非常に多くが、例えば、家具の下敷きになられてたとか、いわゆる家具が固定しきれてなかったがために亡くなられたということが多かったことを受けて、天王寺区のみならず他区でも家具固定の重要性を伝えるためのワークショップというものを私の就任前の年度でもやっておりました。

これについて、今年はそういうワークショップ形式ではなくて、いわゆる災害時要援護者、お一人の力で家具を固定する体力がない方とかそういう事理弁識能力がない方を中心に行政が責任を持って家具を固定するということをやりますけれども、これは、今神崎さんが言われたように、過渡的な措置だというふうに思っています。経過措置的な取組だというふうに思っていますといえますのは、やはり今神崎委員が言われたように、例えば、見守りサポーターでそのサポート業務に携わるボランティアの方とか地域の方が地域のやっぱり助け合い、共助ですね、ともに助けると書いて共助のそのネットワークの中でおばあちゃんちょっと大変そうだねと家具を固定してあげるよとか、そういう善意で持って固定できるようになってきたら、それは本当は行政が予算を支出して行政の労力でもって家具を固定する必要というものはなくなるとい

うふうに思っております。

やはり、社会運営の理想を考えたら、本当にめざすべきはまさにそこだと思うんです、何でもかんでも行政が予算を出して一から十までやっていったらこれは財源も足りなくなるわけですから、少しでも地域の中でそういう善意をもって共助に取り組む人たちのすそ野をどれだけ広げられるかと、その人たちの意識とコミットメントをどれだけ引き出せるかというところがやはり非常に課題になってきますから、ただ短期的には、今目の前に救わないといけない方がいるからそこは責任を持って行政がやらせていただきますけれども、あくまでそれは経過措置だということで念頭に置いて、行き着く先は本当に自立的に取り組んでいただけるような地域人、地域社会というものを醸成するために行政としても最大限の手助けをさせていただきたいなというふうに思っております。

○田中（英俊）議長

ほか、いかがですか。この部会の今後さらに中身を練ってきていることを続けていくわけですね。

○越村委員

評価、ちょっといい考え、アイデアがあったらなあと思ってるので。

○水谷区長

ちょっと今日担当も来てるので、いただきました意見に沿ってちょっとコメントをさせていただいてもよろしいですか。

これ全体的にだからいろいろ論点を出していただいたから、田中課長代理のほうでちょっとピックアップして行ってこれは参考にする、あるいはこれは行政的な考え方と違うというところがあればちょっとお話ください。

○田中天王寺区役所福祉担当課長代理

そうですね、お話いただいているいろいろとご検討いただきましたような点でございますけれども、一つ一つが私どもいろいろ検討もしてきているんですけれども、そうい

った危惧する点も含めてでございますが、かなり同じようにご指摘もいただいております。まだ具体的な事業としては、これは7月以降の開始ということで現在今週の月曜日にそのSV、専門の職員ですね、配属がかなったばかりでございます、今週はとりあえずご訪問はさせていただきます75歳、今年度75歳以上に限らせていただいておりますが、その皆様方、区内で7,000名以上が対象にはなっておりますけれども、その中から既に一定のサービスをお受けになっておられる方ですとかね、それとか2世代3世代同居のご家庭もあるかと思います。その辺をこうまた介護のサービス、施設入所なさってる方はもうまずそれはそちらのほうで24時間のサービスをお受けになってますからそうした方々は一応除外させていただく、そういう言葉悪いかもしれませんが、一応対象の方を絞り込むという作業をここしばらくかかると思います。その上で、実施していくための、次は方策とそれとまず私なども当然含めてでございますがどのようにかかっていくかというその視点を明確にしていけないといけませんので、まずは区の職員の視点を明確にするためのどういんでしょうか、研修っていうんでしょうかね、市立大学の教授、先生方にですねお願いもしておることもあるんですけれども、そうした皆様方といろいろな議論も重ねて、一つのプログラムというんでしょうか、入り方いうんでしょうか、あと具体の対応ですね、それらについて固めていきたいと思っております。

まず職員がしっかりしないと次いきませんので、そのうえで次に地域のボランティアリーダーさんその方たちに求められるものをちゃんとお伝えをするという作業ですね。そのうえでさらに今度はボランティアの方、今で40名少しぐらいでしょうか、ボランティア・ビューローさんのほうにそういうお声が上がっております。これから、そういうお声掛けを広げれば、もっとふえてくるのかと思うんですが、そうした方たちに対してどのようにお伝えをしていくか、どのような視点でお入りいただくとか、入って行く側としても三層というんでしょうかね、ぐらいは当然最低限考えるべきだと思っております、そうした体系的なプログラムいうんでしょうか、その開発を

5月6月にかけてやりまして、同時に6月7月研修等を開始をしながら片一方でもうこの職員はいよいよ入って行くということになります。

今のところはそういうそう流れを中心に考えておりまして、いよいよ入っていきましたときにはいろんなことが想定されます。

もう私元気やから、そんなんもういらんと、来てくれんでいいという方も含めて、特に先ほどもお話もございましたが、男性の独居の方にはそういう傾向が非常に強いかなと思います。私ども介護サービスの現場でもありますが、サービス自体やってませんけれども、そういうところを見ておりまして、デイサービスなんかの実際にお越しにいただいている方々ほとんど女性ですし、なかなか男性というものは表に出てこれないいうんでしょうか、それから地域のほうでもなかなかこう、皆様方地域とのつながりの薄い方も多いように気はしますしね、実際に役所が行ったところでそこはもう、お断りになられるケースも多いかと、ただそういうことがわかったうえで、それでも時々には訪問させてくださいなというふうなことでね、そこはそこでつなげたいと思うんですよ、つないでおきたいと。その上でご本人様の承諾を得たところに関しましては、地域のボランティアにつなげるとこんなことで行きたいと思っています。またその段階でもいろんな問題が実際出てくるかなと思います。そのときにできるだけ必要なサービスが提供できるということを含めてですが、役所の持てる力をあますことなく発揮させていただきたいと、いわゆる縦割りと言われている弊害を除いた形でまた社会福祉協議会のほうも含めてございますが、さらにはいろんなサービス事業者がおります。そうしたところの力も結集できるような形でこの事業を取組む必要があろうというふうに思っております。

○田中（英俊）議長

部会のほうとしては例えば、ここをつめたいので担当の方に来てもらうとかいう発想になることもあるわけですね。

○越村委員

ちょろっとそういう話も。

○田中（英俊）議長

だからそういうときには、連絡をしたら可能であれば一緒に議論に入ってもらおうとすることはできるんですか。

既に決まっていることを部会の中でずっと議論しているってこともありうるわけで。

○水谷区長

だから、どの部会もそうだと思いますけれどもね、部会は本当に任意に皆さんのスケジュールに応じて開催されてると思いますけれども、そこに例えば、この施策についてこの担当者に聞きたいからちょっと来ていただきたいとか、あるいは部会開催前にその担当者のところに行って話を聞いてるとか、そういったことも散見されますから、それは防犯・防災・地域社会作業部会のほうでどういう形にしたらより建設的な議論ができるかというところをちょっと考えていただいてですね、また、続けていただけたらと思います。

今日もいろいろこれ論点出ましたから、その中でも特にどういった点をやっぱり深めるべきかということも、ちょっとうちの担当者の話を聞いていただいたと思いますので、かなり今日本当に詳細にこの新規の取組についてチェックしていただけたなと思いますので、また、本当にクリティカルな観点でこの取組をチェックしていただけたらなあというふうに思っております。

○田中（英俊）議長

はい、そうしたらじゃあこの部会の件はここまで。

○越村委員

すみません、防犯も。

○飛田委員

ちょっとだけありまして、もう一つ危機管理課のほうで、今年度の事業で子ども安全見守り防犯カメラっていうのが、事業として上がっているんですけど、実際にそ

の防犯カメラをつける前に、天王寺区の中にはマンションだとかコンビニやとか、個人宅で防犯カメラがついてるところがあると思うので、まずそれを最初に調べて本当に抜けていて危ないところに効果的につけていくっていうのが大事じゃないかなという意見がでましたので一応、お話はさせていただきます。以上です。

○田中（英俊）議長

はい、わかりました。

田中（誠）委員からシティ・プロモーションの活性化についてご報告をお願いいたします。

○田中（誠）委員

すみません、シティ・プロモーションのほうなんですけど、少しちょっと議題がいろいろと錯綜してましたので、少し整理するために入らせていただきまして、少し今整備をさせていただいている最中です。ですので、今ちょっとイベントに少し偏っていた部分がありますので、もう一度シティ・プロモートという意味で天王寺区をじゃあどういうふうにプロモートしていけばいいのかというところをもう一度考えましょうというところでいこうと思ってます。

基本的な考え方としては、もう今後はやはり経済成長のことを考えても、やはり大きなハコモノとかイベントのみに頼るという活性化は難しいだろうと、ちょっとキャラクター等でといっても確率的にはすごく低い確率ですので、そんなものに頼るっていうのはちょっと違うんじゃないかと、今後は地に足をつけてですね、しっかりとその天王寺区の中にある資源を再評価して、その資源を活かしきっていないところに対して、活かして行くほうがコストもかからずに本当の意味でシティ・プロモートができるんじゃないかというような考え方を持っております。

次のページにいかさせていただきます。

じゃあ、天王寺区の資源、いわゆる魅力というのは何なんだということで、大きく分けて3つぐらいあるかなというふうに思っています。

一つ目は生活インフラが発達してますのでそのあたりの魅力がまずある。これはもちろんマンション等の立地条件とかいう意味も含めてですが魅力があるだろうと。

2番目は、中に住んでいる人はそういうふう感じていないという意見もありますが、文教地区としての魅力は外から見れば確かにあるだろうと。

3番目は、商業地区としての魅力があるだろうと、この3つに関して魅力があるんじゃないかというふうに考えてます。

一つ目の病院と公園のインフラとしての魅力なんです、病院とか医療機関というのはこれはもう区が手を出すという話ではないですし、当然区内にはかなり多くの病院等もありますので、ここに関して何か投資をしていくというのは違うだろうと。

じゃあ公園ということになりますと、天王寺区内には2つの大きな公園があります。真田山公園と天王寺公園、この2つの魅力に関して、もう少し高めることはできないかというところを考えてみました。

まず真田山公園なんです、これに関しては長所としては緑が非常に多いですしスポーツ施設が充実しております。短所としては少し駅からの距離が遠いので、このあたりを考慮すると真田山公園に関しては区外から人を呼ぶというような集客力のある施設ではないだろうと、ただ区内の人たちが自転車や徒歩で通ったりして、健康維持を目的として利用する分には非常にいいものじゃないかというふうに考えています。ですからその部分に関してやはり今後は伸ばしていくべきかなというふうに考えてまして、例えば、スポーツのイベント等をもう少し充実させていったり、もし企業等で興味がある企業があれば、例えば温泉施設等を誘致するというようなことも1つの方策としてはあるのかなあと。ここに健康維持のための天王寺区としての資産を集中させていくというのは1つの提案かなというふうに思っています。

次に天王寺公園なんです、天王寺公園に関しては、長所はやはり美術館とか動物園というのは区外から人を呼べるような施設が存在していると。それと、駅からの距離が非常に近いというところを考えると、これはもちろん区内からだけではなくて、

区外から人を呼ぶことが可能じゃないかというふうに考えてます。

じゃあ短所としては何なんだというところを考えますと、やはり場所的なことを考えますと治安の問題が少しあるのかなと、それに付随して、アクセスというのは駅からの距離は近いんですが、じつは駅からその公園に行くという意味のアクセスが少し悪い気がするんですね。後で地図を見ながらまたお話をするんですが、その部分のアクセスという意味でございます。

いずれにせよ天王寺公園はかなり駅の近くに大きな緑を有してまして、集客できる可能性のある施設も多く有してますので、このあたりをもう少し利用することができれば天王寺区として、今ある資産を有効活用することが可能じゃないかというふうに考えております。

ではどういうふうな位置づけとして考えていけばいいのかということなんですが、後でも述べるんですが天王寺というのは、今 J R の天王寺駅より南側が隣にも地図があります、ハルカス等でかなり商業施設として開発されております。これは非常に我々にとってもありがたい、天王寺区にとってもありがたいことで、そこに対する集客力がある。じゃあ天王寺、J R の天王寺駅より北側をどういうふうにビジョンを持ってかえていくのかとなったときに、商業施設としてかえるというのはこれはあまりセンスがないんじゃないかと、南側にしっかりとした商業施設ができてるわけですから北側もじゃあ商業化してしまえということではなくて、北側に関しては、あの緑と美術館と動物園を持ってるというところを考慮しますと、北側は大人が少し時間をゆったり過ごせるような場所にするのがいいんじゃないかというふうに考えております。

そうとらえたときに天王寺公園の中に何かそういう施設があるかという、美術館を出た後にそのままなかなか時間を大人として使えるような場所が少しないんじゃないかというふうに我々は考えまして、例えば美術館の前にオープンカフェをつくりまして、そこで例えば天王寺区の有名なスイーツが少し食べれたり、お茶をゆっくり飲めたりというような場所があれば大人が美術館に行って時間を過ごして入場料の 10

0円なり150円なりを払う価値が十分にあるんじゃないかというふうに考えてるんですね。

ここは、天王寺公園というのは有料ですから、やはりそのお金に対して払っていただいたコストに対して、それなりの価値を提供するこれはビジネスとしては当然の考え方だと思いますので、今その価値が十分に出し切れてない部分があるんじゃないかと。もちろんそれなりの価値は当然あるんですけども、もっと高めることができるんじゃないかというふうに考えてます。ですから、このあたりのアイデアをもう少し出すことができないかなというふうに考えてます。

もう一つとしては、先ほどお話しした通り、解決すべき問題点としてアクセスというのがあると思います。駅から近いにもかかわらず、なかなか駅から直線的に渡れないというところがあります。資料の地図を見ていただくとわかるんですが、JRの天王寺駅から斜めにこう渡ることができないんですね。いったん北側にぐるっと回って横断歩道を渡っていったん帰って来てという形になります。そうすると、なかなかゲートに直接的に進めないというところがありますので、これはアクセスがなかなかよくないのかなあというふうに思ってます。

それと、これに付随して、やはり公園の入り口の南側のところが少し人の流れが悪くなっているんですね、そこに椅子がこう円形に並べてあるのでそこで例えば、将棋をされてたりゆっくり時間を過ごされている方がおられるんですが、そこがちょっと一種異様な空気を出してる部分があります。これは天王寺区として、やはりあそこは玄関、天王寺公園の玄関ですから入り口ですからその入り口に対して、異様な雰囲気っていうのは、やはりよろしくないんじゃないかと。特にお金をいただいてここに対して来ていただくということを考えると、入り口っていうものの人の流れっていうものはきっちりと考えるべきじゃないかというふうに考えてます。

ですから、直線的に渡れるようにすればそういう空間が人の流れができますからそういう意味ではある種のそういう雰囲気とかいうのは改善されていくんじゃないかと

いうふうに考えています。そこをやはり天王寺区として、行政として改善していくということは、非常に重要で長い目で見たときに天王寺公園の価値を上げていくことになるんじゃないか、それはひいては天王寺区の価値を上げていくんじゃないかというふうに考えてます。そのあたりがアクセスとして考えています。

後もう一つ、地図を見ていただきたいんですが案内図というところになっていますが、茶臼山のところに出口はあるんですが入り口がないんですね、そうすると天王寺公園から入りますと出ることはできるんですがある種の袋小路状態になって茶臼山とかわんぱく公園てのはかなり人が少ない状況になっております。やはり天王寺公園が天王寺区の区民から愛されて利用されて数多くの来館者というものをふやすためには、やはりこちらの茶臼山のほうにも入り口出入り口をつくるっていうことは一つの流れ、動線、人の動きというものを考えたときに必要じゃないかというふうに考えてます。

ですから、それをする事でどちらにも通り抜けできる、そうすると例えば、茶臼山の奥には一心寺さんがありますし、一心寺さんにお参りするついでに天王寺公園を通り抜けてその天王寺公園にそれだけの価値があれば、通り抜けようかなという方もふえると思うんですね。で、そのようにして、やはり魅力的な天王寺公園にするとともに動線というものをしっかり考えたうえで人を流していくということを考えていく必要があるんじゃないかというふうに考えております。

ですから我々の提案としては大きくわけると2つあって天王寺公園の魅力っていうものをそもそもふやしましょう。これは天王寺公園の魅力としては、我々はとにかく都会のオアシスということで大人がある程度の時間、子どももそうなんですけど動物園がありますからお子さん連れもそうなんですけど、そういう天王寺区民、区外の方もそうなんですけど、来る価値のある公園にまずもっと高めていきたいと思いますということが1つです。

それと後、動線という意味で考えたときに茶臼山側に出入り口をつくって一心寺さんと四天王寺等から流れるルートをしっかりつくってあげることで利用者がふえて

より魅力的になるんじゃないかというふうに思ってます。

次に文教地区としての魅力なんですが、これに関してはもう既に多くの学校施設等がありますし、塾や予備校等も天王寺区にはかなりの数がありますので今ここに対して積極的に投資する必要はないだろうと。ただ、次の部会にもありますように子育てとかそういうものに対する支援とか次世代をしっかりと鍛えていくという意味の資源の投資は必要ですが、ハードという意味での投資は今必要ないんじゃないかなというふうに考えています。

最後に商業地区としての魅力ということなんですが、恐らく天王寺区には3つぐらいの大きな商業地区があるのかな、まずは鶴橋と上本町と天王寺ということになると思うんです。鶴橋に関してはもう既に焼き肉とかそういうイメージがもう定着しておりますし、それは十分なブランド力を関西では有していると思いますので、これに関してはあえて今何かをつぎ込む必要はないと思います。ただ、できれば放置自転車を今撤去をかなりしっかりやっていただいて、きれいになってますがそれを継続していただいて、鶴橋等も来ていただいた方が快適に通れるようなスペースにしていいただくという努力はしていただく必要があるのかなというふうに思ってます。

次、上本町に関してなんですが、上本町に関しては商業施設がしっかりありますし、公共として何か投資をできるような場所があそこに存在するわけではないですし、後難波がよく似た系列として近くにありますので、なかなか上本町だけを何かを投資したから集客力がふえるということはないと思いますので、上本町に関しては今のままの形でとにかく人が通勤等に使えるような使いやすいような形をとっていけばいいのかなというふうに考えてます。

最後、やはり先ほどもお話しした通り天王寺なんですが、これはもう南側が再開発されているということと天王寺公園という広大な公的な機関があるということを考えますとまだまだ利用価値が非常に高いと思いますので、そこに対して天王寺区として、長いビジョンを持って、やはり天王寺公園というものをどういうふうに長い目で見て

価値を高めていってということをしかりと考えないと短期の目線で天王寺公園を議論するということではなくて、動線等も全て含めて少し長期な目線でご議論いただいたほうがいいのかというふうに私は考えております。

以上で終わらせていただきます。

○田中（英俊）議長

基本に立ち戻ってというような感じで楽市楽座はどこにいったんだということもあるんですけども、ただこれは私はよくわからないので区長にお伺いしたいのは、天王寺公園の活用とか活性化というのは区政でやれるのか市が全体を見ながらやるものなのかそのところで提案の内容とか仕方もかわってくる可能性があると思うんですがその点をちょっとお教えいただければと思います。

○水谷区長

基本原則としましては、天王寺公園とかあのエリア全体のその再開発といった事柄につきましては、広域行政オール大阪で検討する事項というふうになっております。

基本的に今現在の市政改革の流れがいわゆる再開発等ハード面での改善にかかるところは広域で、そういう先ほど皆さんと議論していただいた福祉などやっぱり安全安心にかかわる基礎自治行政は各区でという方向で流れてきております。

そうした経緯に鑑みますと、一義的にはその天王寺公園、天王寺美術館、天王寺動物園含むあのエリアの活性化策ハード的にやるには、それはやっぱり大阪市全体での検討が必要になっております。

ただし、私自身としまして、こういうシティ・プロモーション作業部会のほうでこうした提案していただくのは非常に重要なことだというふうに思ってます。なぜならやはり最終的な決定は市全体で行うとしてでも、天王寺公園が天王寺区内にある天王寺動物園、美術館が区内にある。これはもうまごう事なき事実ですね、ですから、これはもう区の資産としてこの魅力をより高めて区のにぎわいをより高めていくためにも、天王寺区として天王寺区の人たちがこの公園のあり方についてどういう意見を言

っていくかというところは非常に重要だというふうに思っております。

先日も大阪市の本庁舎のほうで天王寺の美術館のあり方検討会という形で市の特別顧問、新たに就任された参与中心としたいいわゆる美術館経営に関する専門家の意見交換の機会というものがあつたわけでございまして、私もこの天王寺区長として地元の声を紹介する立場として招かれました。

そこでのやっぱり議論を聞いていて、やっぱり田中（誠）委員が今おっしゃったようにその公園エリアにつづくその動線とかアクセシビリティを向上させることはこれは美術館のみにとどまらず、あのエリア全体を活性化するための大前提だと、また、あのエリア全体を活性化するには、視点を美術館だけに移すんじゃなくて美術館はもちろんその周りの慶沢園もそうですし、動物園もそうですし、これら全体で何か1つ目玉となる取組、本当に田中（誠）委員が今おっしゃったように大人がゆっくりと休日をごせる梅田や難波とはちょっと違った風合いの町の特色っていうところがポイントになると思うんですけれども、そうした方向性とこの天王寺美術館のあり方を考える検討会の専門家の意見も、私の認識としては、かなり一致している部分が多いなというふうに感じた次第です。

ですから、ちょっと話はそれましたけれども今議長からのご質問に答えるとするれば、一義的に公園のあり方を決めるのはやっぱり市全体ですけれども、天王寺区から区役所のほうから、地域ではこうした見解が1つ呈されているということを意見具申するとそういうことは十分に可能だし、私自身として絶対にそれはすべきであるというふうに認識を持っております。

○田中（英俊）議長

私の質問した趣旨は区政に対して、いろいろ意見を言ったりするっていうことでこの戦略会議で来てますけれども、その一環として天王寺公園を扱うことについても区としても意味があるというふうに言っただけのことであれば、これからもそこをこのところを進めて行くということにさせてもらうということだと思います。

○水谷区長

そうですね、これまでの楽市楽座とかももちろんなかったわけじゃなくてそれもそれで、こないだ確か内本委員のほうからシティ・プロモーションの担当部署というお話もありまして、今年度天王寺区としてもそのエレベーター横のフロアガイドを見ていただいたらわかりますけれども、シティ・プロモーションの部署も、今日担当の課長代理も来てますけれども、設置しておりますのでそこを母体にそういうハード的なビジョンと楽市楽座のようなソフト的な、イベントどういうふうにやっていくか取組をどういうふうにやっていくかっていうのも合わせて部会でまた全体会で議論できればいいのかなというふうに思っております。

○田中（英俊）議長

それでは、今の報告あるいは区長の発言も含めて意見や質問いただきたいと思いますけれども、また議長の特権で私一言しゃべらせていただきますと、ひょんなことで私あの去年、区長来ていただいたということですが、七夕祭り I N 四天王寺の実行委員長をさせていただくことになりまして、この今年の祭りはウェルカミングアベノ、阿倍野のウェルカムカミングというのは J R と東急キューズモールも出ますけれども、それとハルカスの近鉄のこの 3 社が集まってこの地域に外からあるいは日本全体から人を呼び集めようという組織なんですけれども、それも入ってそしたら聖和地区も一緒になって大江地区と聖和地区が協力しながら阿倍野区とも協力して、お祭りを大きくしていこうという取組をしようとしておりますので、プロモーション部会の方々もどんなものか来月っていうか 7 月の 6、7、土曜日、日曜日にやりますので月曜日の晩にお焚き上げ、短冊を書いたものを子どもたちいっぱい書いてくれて何万人と来るんですけれども、去年が 6 万ぐらいですか今年は 10 万人ぐらい集めたいと思っていますが、そういうことをやりますのでプロモーション部会の方々天王寺、四天王寺がどういうふうに使われるかっていうのを見ていただければと思います。

それから、今言った阿倍野のウェルカミングの人たちも動いて 5 月 18 日に日本全

体1,000校から選ばれたアカペラの発表会が四天王寺で行われます。5月18日の2時から夕方夜の8時までやりますけれども、これ約8,000人の人たちが来て今までは神戸や京都でやってたんですけれども、これからずっと四天王寺でやるかっていう試金石になりますのでこれも地域として応援して、四天王寺もこれだけじゃなくてこれもそういう使い方もできて、宗教に反しないければ、使っていいよというのが今四天王寺の姿勢ですのでそういう点もご理解いただけたらとそれから、古いお祭りで愛染祭り浴衣祭りがありますけれども、これは6月30日これは毎年決まったお祭りで夏越しの祓いっていうのをやってこれも四天王寺が狛下以下全員参加するようなことですが、これも午後の2時ぐらいからキューズモールから出発して愛染さんまで行くお祭りがあります、こういう古いお祭りとか新しいお祭りがどんなに動いているのかも見ていただいてほかのこれからの活動に参考にさせていただければとちょっと手前勝手な宣伝になってしまいましたけれども、よろしくご理解いただければということでございます。

それでは、ご意見とかご質問受けたいと思います。

○田中（誠）委員

一応誤解がないようにちょっと一言だけつけ加えさせていただきたいんですが、今までのそのイベントに関するその議論を全く否定するものではないんです今回のことは。ただ、それにその議論に入る前にまずは、ちょっと天王寺区の魅力っていうものを見直しましょうかというすごい土台の話であって、天王寺区自体にやっぱり魅力がないと天王寺公園とかに魅力がないとそこにイベントを呼んだとしても人が来ないだろうと、企業も参加してくれないだろうというのが私の考え方で、やはりその企業が入りやすくなる四天王寺さんなんてすごくまあまあきれいなところですから、あんなところで何かができれば多分人はすごい集まりやすいと思いますし、天王寺公園ももっと整備されれば、整備っていうのは、そのハードという意味ではなくてソフトという意味で我々がやれる範囲でソフトでやれることはいっぱいあると思うので、そのの

整備がされれば、イベントをするにしても人も企業も集まりやすいんじゃないかというところを一度整備したいなあと思っただけのことで、今までの議論を全てひっくり返すという話ではございませんのでそこだけはちょっとつけ加えさせていただきます。

○水谷区長

田中（誠）委員ちょっと一点だけ質問いいですか。

○田中（誠）委員

はい。

○水谷区長

基本的に本当に田中（誠）委員の問題意識もそうですし、その今のシティ・プロモーション部会でのその議論の方向性とかってのも非常に示唆的ですごい納得する点が多いなあと思って、極めて具体的なこの天王寺駅北口のところの横断歩道の話なんですけれども、今確かに北寄りのところについていて、それをまあもうちょっと南にずらすといいますか、駅を出てあの前を通過してロータリーを通過してダイレクトに公園前広場に行けるようにするというその指摘は非常に参考の価値あるなあと思ったんですけれども、よく言われておりますように、この南北の通りも東西の流れも、渋滞ぎみの傾向があるというところが兼ねてから指摘されています。ここをスクランブルのような形で横断歩道化すれば、よりその渋滞の可能性が高まるんじゃないかという懸念もありますその点についていかがでしょうか。

○田中（誠）委員

私が考えているのは、この交差点の渋滞は基本的に北から南に流れる交通量の渋滞が多いというふうに考えてます。実際私が通っててもだいたい渋滞するのはそうですね、天王寺公園よりもうちょっと北側から南に行くところですね。渋滞している原因としては、やはり我孫子筋ですかねあそこは。チン電のところで結局路駐も含めると一車線になってしまうんですね、4車線ぐらいあったものが1車線になれば当然渋滞が発生するのは当然のことですから、今起こっている渋滞というのはそこに起因して

ると私は考えてます。

ですから、南側の開発が進んであそこの道路が太くなればその今起こっている渋滞の多くは解消するというふうに考えてます。そう考えた場合に、その前提にたったうえでここにスクランブル化することに関しては大きな問題性はないんじゃないかというふうに考えております。

○栗谷委員

この前ちょっと新聞等に出てたんですけれどもその、天王寺のそのチン電のところから天王寺公園を入れて行くトラム電車ができるとかできないとかそれはどうなっているのでしょうか。

○水谷区長

そうですね、検討するといいますかL R Tが通るかどうかということも含めて調査するために今年度はその調査費用という形で予算はついているというふうに認識しますけれども、ちょっとそこから先についてはですね、まだ今後議会での議論も含めてというところかというふうに思います。

○飛田委員

じつはこの交差点ですね、すごいややこしいのはややこしいんですよね。ここに多分スクランブルができて天王寺駅からそこへ渡るのに経路がないんですよね、結局地下を通って行くっていう前提で計画されたような気がするんですよ。地下通ってもらうとわかるように、地下すごいわかりにくいんですよね、どっからどう上がれば天王寺公園に行くかわからないんで、まずそれが一番かなと。そうしたら上を渡る人は少ないのかなと。後は天王寺駅の北側の細い道ところにですね、タクシーがすごくとまっていて結局それも渋滞の原因かなと。南北も今の工事もあるんですけれども、もともとここすごく混むのは混むんですよ、一車線になってしまいますよね、どうしても真っすぐ行きたい時、それもあるのかなと。本当は天王寺バイパスで途中からこううまく分岐させて流れるようなことがあればみんなそっちへ行くんだけど、知らな

いで真っすぐ行っちゃたり、新今宮のほうから回れば早いのにあそこを曲がろうとする車がいたりするんでそれも含めて何か考えればいいのかなと。

○田中（誠）委員

おっしゃる通りだと思うんですね、いろんなやり方があると思うんですが、私はスクランブル化を考えたのは、まずJRの天王寺駅の角から見るとじつは真正面に入り口が見えるんですね天王寺公園の。ということは真っすぐ渡ればいいじゃないという発想です。それと地下をいじるとなると、かなりのコストがかかると思います。私はやはりコストというのは今のその行政っていうのはもう赤字ですから赤字企業がコストをかけて何かをするっていうことはあんまり僕は想定しづらいんじゃないか。そう考えたときに歩道をつくることは、これはその建設局等のいろんな考え方の問題はあったとしても、コストとしてはそこまではかからない可能性が高いとそう考えたときに、費用対効果で考えると何かを整備をするというよりはまずそこでやれることが一番最短でやれることをまず実行してみるっていうことは重要じゃないかっていうのが、そもそもの僕の発想なんですね。

ですから、高架にしてという考え方も田渕委員からじつはあったんですが、高架にするとやっぱりコストがかかるのと。後、高架にするとだいたい下のところに少しこう空間ができますから、そういう空間にまたブルーシート対策ということをやると得なくなる天王寺の場合はそういう特有のものが有りますから、そう考えたときには路面できっちり一本で駅からアクセスができると。そのアクセスの前にゲートがあってそこでゲートで迎える。お金をいただいて中に魅力的なものをつくる。これはすごく理にかなった流れかなというふうに私自身は考えてます。

もう1つは今さっきも先ほども話した通りで、やはりそのちょっと異様な空気を取り払いたいという部分も一種あります。あの部分っていうのは、やはり子どもとかが遠足とかで動物園に入るわけですから、私は結構、私の年代だとあの雰囲気はなれてるんですけど、天王寺区に住んでいるとあの雰囲気はじつは慣れているんですが、

やはりなれておられないお子さんとかその保護者っていうのを考えたときに、区外から人を集めるためにはああいう雰囲気のことではなくて、やはりある程度の人の流れをつくって入り口というものをきっちり健全化するという必要性があるんじゃないかというふうに考えます。

○田中（英俊）議長

はい、田淵委員。

○田淵委員

私もじつはスクランブル化ということをどっちかという賛成論者でして、現地見に行ったんですね、やっぱり問題点1個あるのは、天王寺駅に入るタクシーの入るところありますよね、あそこが結構危ないんですよ。多分あそこはJR西日本の持ちものだと思うんで我々がとやかくなかなか言えないところだと思うんですが、交差点の斜めのところから天王寺駅のほうに入っていくあれを改善しないことにはその警察も多分、首を縦には振れへんのん違うのかなとちょっとそういう推測も持っております。

○田中（誠）委員

おっしゃる通りで、いろいろな切り口があると思いますので、ただ我々として天王寺区としてビジョンを掲げるときには、今までのタブーっていうのは無視すべきかなというふうに思っているんですね。今までできなかったから、どっかがどうだからこうだからって言うてしまうとこれはビジョンではない気がする。我々はこういうふうに関王寺公園をつくっていききたいそのためにじゃあ警察がどうすれば納得するのか、建設局がどうすれば納得するのかっていうのを動かしていただくのが、やはり区長であつたり出席いただいている議員の方であつたりというふうに私は思っておりますので、我々は自由な発想で今までになかったもの、今までの発想ではできなかったことをしっかりご提案するということは非常に重要なのかなあというふうに考えてまして、我々のその単純な発想ですよ、入り口があそこにあるんだから渡ればいいんじゃないのっていう、そうしてそこのそれによってきっちりとしたアクセスができれば

ば、そこはすごく健全なものになるんじゃないかっていうところを我々としてはぶつけて、後はすごい無責任な話ですが、ある程度その努力をしていただくのは行政の側で努力をしていただきたいというふうに私のほうはちょっとじつは考えているものがあります。

○田中（英俊）議長

この部会の時間もせまってまいりまして、まだ検討の途上でございますし、またパブリックヒアリングもされると思います。

○水谷区長

シティ・プロモーション部会これまでいろいろ議論していただいて大きな2つの方向性が示されたかなと思っておりまして、まず1つは、今日プレゼンテーションいただいたような公園エリア含む、天王寺としてどういうビジョンをめざすのかっていうところですね、もう1つは、じゃあ個々の楽市楽座であったりとかどういうイベント、そういうソフトをやっていくかってところだと思うんですけども、前者についてもぜひ今日出していただいような意見をさらに深堀していただいて、我々のほうにまた提出いただきたいなと。もちろん天王寺公園というのは天王寺区民にとってもかけがえのない美術館も含めて大きな財産ですから、皆さんさまざまな思いを持っています。その中で、いただいたご意見ということで、これは何らかの機会を通じて、本庁のほうにも伝えて、また局側ともいろいろと協議をしてまいりたいというふうに思っておりますので、ぜひそれはとことんあのエリア全体でどういうビジョンをめざすのかというところを議論していただきたいなというふうに思います。

○田中（英俊）議長

ありがとうございます。では、次に移りますけれども、ちょっと話聞きながら思い出した個人的なことで申しわけない。ロンドンに4年住みボストンに4年住みましたが、セントラルパークとかパブリックガーデンは週に1回は遊びに行って、その楽しんでた街で天王寺区にそういう公園ができれば夢みたいな話でいいなと思うん

ですけれども。ちょっと期待しております。

○水谷区長

くしくも昼に私もうちの課長とですね、ロンドンの話をちょっとしてて、だから梅田とか難波とかとはまた違った大人の街みたいなところをめざすうえで、やっぱり梅田がロンドンだとしたらロンドンばかりいると飽きるわけじゃないですか。ちょっと離れて、例えば、エジンバラのほうへ行ったらまたロンドンとは全然違ったどちらかという田舎びた雰囲気だけど、あれはあれですごい大人がゆっくり過ごせる本当に環境のいい町ですよ。だから、そういう何か多面性のあるまちづくり都市づくりっていうもののために天王寺区としてめざせることというものを私も一丸になって考えていきたいなと思うところです。

○田中（英俊）議長

次に、教育・子育て・国際交流の作業部会から出水委員をお願いします。

○出水委員

はい、教育・子育て・国際交流のほうなんですけれども、本来3つ一応最初のテーマで掲げてまして、1つ目は、学校派遣の分ですね、2つ目はterakoyaで、3つ目がボランティア団体の創設っていうので今進めておりました。

1つ目の学校派遣につきましては、今田中（誠）委員含めて学校まわりをしていたでいております。もう間もなく全て回れるぐらいになってきました。

最終的には校長会にも主席させていただいて詳細のご説明をさせていただく、ちょっと今、大教大さんの附属中学校さんからもちょっと興味があるということでお話も頂戴しておりまして、そちらのほうにもお伺いさせていただいてうまく合えばご参加いただければというような形で進めております。

続きまして、今日は基本的にはterakoyaの話を中心に進めさせていただきたいんですが、前回からですねずっとやっておりますように基本理念等々につきましてはもう今まで通りの流れであります。前回から手を加えたところとしては、実際の運営方法

ですね、これをどうするのかということではいろいろありましたので、そこにつきましては、基本的に運営自体は実行委員会方式を考えております。そのメンバーの中にはNPO法人であったり区役所さん、もちろん当然入っていただくことになると思いますけれども、国際交流センターさんこのあたりを基本的にメンバーに入っていただける形をとって実際に運営をしていきたい。

主体となるところについては、NPOの団体をこちらのほうで運営をしてもらうという形で考えております。今ですねちょっとそれぞれの講師の先生の候補に挙がってらっしゃる方々にアポをとったり、お伺いして事情説明をしてという形では流れてはおるんですけれども、実際夏ぐらい8月9月10月このあたりをちょっとスタートとして考えておりまして、実際にその日が決まればもうちょっと深くその講師の方とか、後運営方針についてお話ができるのかなという感じで今進んでいっております。

で、内容につきましては前回もお話しているように討論教室というパターンと、もう1つがこどもアンバサダーという形で。討論教室のほうにつきましては基本的には自身の意見をはっきり言う、述べる、後、人の話をしっかり聞ける、最終的にはみずからの意見をしっかり持つというのをテーマに掲げておりまして、それぞれで各テーマごとに講師のお話を聞いていただいたうえで討論していただく、討論とまでは最初はいかないかもしれないんですけれども、みずからの意見をしっかり前で発表できるというところをめざしていきたいと思っています。

もう1個のほうのこどもアンバサダーというほうがですね、ちょっとイメージ的なものなんですけどもう少しちょっとやわらかい感じで体験型を基本的には中心に進めていきたい。いわゆる学校教育では行けないようなところに行ったりとか、体験ができたりとか実際に教科書で教室で学ぶ以外のところを、いろんなみずからが体験して肌で感じてというところを基本方針にこの2本立てやっていきたいと思っています。

それでは、しっかりとした運営方針が決まれば講師の方等々の話を進めていきたいという今そういう状態です。前回からあんまり進んでないんですけれども、はい

そんな感じです。

○田中（英俊）議長

今日は時間配分で非常に短い時間だったんですけども、それはともかくとして、下のほうにも書いてあるんですけども区役所はあくまで窓口に徹するとあるんですが、区役所の仕事として区政の中でどういう位置づけになるのか今のご報告をいただいて、ちょっとよく理解できないところがあるんですが、それは区役所のほうとお話し合ってるの。それとも区長、何かこの点についてご意見として。

○水谷区長

はい、部会のほうからですね、当区のほうで今年度は未来人材育成担当の課長というものを任命いたしまして、そちらの未来人材育成担当課長と教育・子育て・国際交流作業部会のほうで、打ち合わせをしているというふうに認識しています。

基本的に今年度天王寺区としましても、子どもの社会教育事業に関する予算っていう形でいただいておりますので、そちらの枠を使ってこのterakoyaも含めて子どものその将来につながりうるような何か取組を進めていきたいというふうに考えております。

ですので、いろいろまた前回も今回もご説明していただいたわけで、もう基本的に講師の当てとかそういうのはだいたいついているんですよ。

○出水委員

はい。

○水谷区長

そういうコンテンツの部分は非常にすぐれているというふうに私も思うんですけども、運営方法については、また事務方レベルで部会といろいろとご相談させていただくのかなというふうに認識しております。例えば、これ運営は実行委員会ベースというふうにお書きになってますけれども、実行委員会ありきじゃなくて要はこういった事業をやるのに一番ベストな運営体制が多分お互いにとってもよろしいでしょうか

ら、じゃあそれはどういう形なのかということも含めて、考えていただきたいなと。

また未来人材育成担当課長と相談しながら、それぞれがどういう役割をするかということを考えていただきたいと思います。

経費について、一講座につき5から10万円と、行政もさまざまな講座やっていますが、でもこの経費っていうのは多分、知っている人からしたら結構なコストだなと。だからそこらへんの見積もりもまたちょっと教えていただいて、適切な価格に落とし込んでいくっていう作業が必要かなと思います。いずれにしてもそういった経費面とか運営体制面とかそういう実務的な調整の段階だと思いますので事務方とで協議のほう続けていただきたいなと思います。

○田中（英俊）議長

前回ご報告があったときに区長からこれは非常にいい取組だというご発言もありまして、部会のメンバー皆さん势力的に取組んでると思いますけれども、次回例えば、どういう講師を考えているのかとかもうちょっと具体的なお話もお伝えいただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

○出水委員

はい、わかりました。

○田中（英俊）議長

予定の時間が進んでまいりまして、特に今日、その他として提案とかご意見があれば承りたいと思いますが皆さんいかがですか。今日、プロモーションのほうから市会、市議会と関係するような提案もございまして、この地域で活動されているお二人の議員もいらっしゃっているわけで、その点も含めてそのご意見というかお考えというかいただければというふうに思います。いつも短い時間で恐縮ですがけれども、いろんなテーマについてお話いただきたい。

○足高議員

今日主な話聞かせていただいて、なかなかよく頑張っておられるのがようわかりま

した。

これまた一個ずつ言うともたややこしいんで、ちょうど私はこの動物園とか公園を中心に議員になってからずっと質問しておりましてね、多分皆さんがあまりご存じでない方向というのがあるんです。

1 つは、公園を無料化にするというのはこれは私ずっと言ってますから、その方向で多分進むだろうと思います。

先ほどスクランブルの歩道の話がされてます。非常におもしろいのはおもしろい。ただね、さっきちょっとその地下鉄やタクシーの話がされたでしょ、じつはあそのＪＲの駅のところは、これからやっぱり大阪の看板ですからね、そこから３つの京都とか奈良とか和歌山という世界遺産３つの方向に行くベースやから、今まであそこには観光バスが入らなかったでしょ、じつはあそこにもうじき観光バスが入るようになるんです。これはもう決まってましてね、それはなぜかというハルカスができる時にあわせて、例えば１０１なんかでしたら、あんだけ立派なとこいっぱいそのバス来ますけど、どこもとめられないです。おろしたらパッとどっか行って時間がきたら帰って来ると。そんなことがあの天王寺阿倍野エリアでされると大変なことなんで、一応ＪＲも了解されてあそこにバスが入る。ちゃんと一遍ちゃんとできるという形のはもうじき始まると思います。

それから、動物園そのものも、あの前がもっと変わってきます。今で天王寺側からその動物園に入るところがなかったんですね、それをようよう頑張ってたつくっていただいたんです。それ以上にあの前のところをもうちょっと工夫するということで、今現実に動いてます。そのいろんなことがあるかもわかりませんが。だいたいその辺の話が大分変わってきてるんです。

それからもう１つは、先ほどあの栗谷さんがおっしゃったちんちん電車いうか、あれがなんか新聞で読みはりましたそんな話は。

○栗谷委員

ネットでも出てましたよね。

○足高議員

どう書いてました。

○栗谷委員

いや、今のちん電の駅から観光客に動物園を見せて、新世界を通って難波に抜けるという。

○足高議員

うん、ところがね、ちょうど今日私も区長も天王寺の新しい歩道橋ありますね、あの渡し初めに行ってきたんですけれどね。

じつはあの高さが、チン電が通らない高さになる。だからその辺のこともね、これわかってるのに違う書き方をしているんやと思います。もともと書いてあったんは、天王寺駅までって書いてあったと思います。

あの天王寺駅は、阿倍野区の今のちんちん電車の天王寺駅のことなんです。それをみんなちょっと勘違いされてね、天王寺といったら天王寺側にできるというように誤解されてるけれども、先に、変な話やけど、いろんな話も一緒ですけれども、先に歩道橋ができてしもてるからあれをもっぺん潰せって言ったら、あれものすごいお金なんです。

だから、どことは言いませんけどね、勝手にこっちにつくりたいと思ってる人がいてるのは事実です。それは、多分不可能だと思います。

区長なんかその調査費つけた言うけど、そんなんあるんやったらまた、ちょっと議論せなあかんとか。

もともとその広域でやってますんでね、なかなか区長がああいろんなところで入ってはるのは事実やけども、非常に厳しい立場でしかないのかなあという思いがあります。だから、その辺もよう踏まえて、もうちょっといい話なんでね、その辺で、先ほどでいろんな話があったけどそれをどういう形で組み込んで、やるかということをお

考えいただいたらもっとええもんになるのかなという感じがいたしました。

○田中（英俊）議長

そうすると、固まった段階で市役所の公園担当のところに行って話を聞くというようなことも必要でしょうか。

○足高議員

公園だけではなく、建設局とか今、都市計画局そういうとことやっぱりちょっとお話をされんと、もう既に決まってる部分がたくさんありますから。

皆さん方になかなか公表せえへんというのは、大阪市の悪いところなんです、その辺もね一遍よくお調べになってさらにもっといいものにかえていただいたらいいのかなと思ってます。

○田中（英俊）議長

はい、ありがとうございました。はい、そうしましたら、福島議員。

○福島議員

はい、非常に多分この月1回すごい頻繁にされてますけれども、そのために部会でいろいろ深く議論されているんだなと思います。多分、24区で今こういうのやってますけれども、天王寺区が戦略会議という形にしたり部会にしているのは非常に画期的だなということで、それは市長自身も認識されています。

中身に入る前にまずちょっと議会のことなんですけれど、3月にこの皆さんにやっていたっている区政会議も、非常に天王寺区のように活発にやっていたいるところと、そうでないというのはあれですけれども、やっぱり区政会議に一定の責任と権限が必要だということで、それに対してやっぱりきっちりとした位置づけをしようということで3月に区政会議に関する条例というのが可決されました。ですから、皆さん方の議論という位置づけも非常に重要になりますし、またそれだけ責任というものも強くなってきているという方向にあります。

条例ですということは、何か今変わるんかというかわからないんですけれども、

やっぱりそれだけ皆さん方の意見も非常に重要ですしそれだけ皆さん方も責任も伴ってくると、何か罰則とかそういうことはありませんけれども3月に可決されましたので、それだけ皆さん方がこれから議論ていうのが重要になってくるというのが今の位置づけです。

今日も3つこの部会の話ありましたけれども、それぞれ聞いてなるほどだなという面ももちろんありますし、僕も今議員をやっている中で難しいんじゃないのかなという部分も確かにあります。でもそれは、田中誠悟委員おっしゃったように、できないというところから入るともちろんできないですし、たださっきのスクランブルの話も議員として聞いてたら難しいかなあという部分はあると思います。じゃあそれで結果的にできないとしてもじゃあ何かアクセスをよくして、天王寺公園に人の流れをつくっていきたいという考えを否定することではないと思いますので、じゃあもしそれができなかったら、どのように人の流れをつくっていくのかというふうな考えはずっとまだ持ち続けたいといけないと思うんですね。

天王寺、阿倍野ってということで阿倍野がキューズモールができたりハルカスができたりすることで、阿倍野のほうは何となく元気があるような感じなんですけれども、やっぱり我々としてはそれを取り合いということではなくて、共存共栄と、天王寺公園も天王寺から本当は入るべきなんですけれども、アクセスが悪い面とか動物園のもともとの入り口が浪速区のほうにあって、やっぱりこっちからも入って行って、それは昔浪速区とちょっともめたことがあったけれども、そうじゃなくてやっぱり大阪全体として、天王寺も繁栄して浪速も阿倍野もみんなが繁栄していくようなことを考えなければならないんだと、そういう意味では人の流れをどうつくるかと。それは天王寺だけに入ってもうたらいいってことではなくて、それぞれがうまくしていくことが必要だなという部分があると思います。

橋爪さんという方が特に観光とか天王寺公園も含めて今大阪市の顧問という形でされています。その方じつをいうと一遍市長選に出られてたこともあったんですけれど

も、今も前市長のときもその方が顧問ということをされています。やっぱりこの天王寺のエリアというのは非常に重要やと、外国、これ今いろいろ人を呼び込むという話があるんですけども、外国っていう視点からもちょうど空港バスも天王寺から出ますよね、最後にもう一回天王寺阿倍野エリアに寄ってもらって、そこから出てもらうとかっていうことも大阪これからも考えて行く大きな視点だなあというふうに思います。細かく言えば、いろんなのありますけれども、まず皆さん感じた発想をいかに実現していくんかと。役所が悪いわけじゃないんですけど役所は、またこういうことはできませんっていう。じゃあできないならじゃあどうしようかってと変えていきながらも視点は維持し続けて行っていただけたらなあと思います。

それとこの最後の、子どもの関係のやつですね、これって非常に実現可能しやすいと思うので、僕としては天王寺区からこの区政会議で出た意見が例え小さいやつでも、何か早い段階で実現できて、それがまた皆さんの今後のもっと大きな提案に向けてもはずみになればいいなと思いますので、また今後からも、今度もより一層活発な議論をお願いいたします。

○田中（英俊）議長

はい、ありがとうございます。司会が悪くて若干時間があましておりますけれども、せっかくの機会、個別の問題については区長がやりとりさせていただいておるんですけれども、今の両議員の話も踏まえて最後に区長から若干時間ありますから、大演説になってもよろしいかと思います。

○水谷区長

はい。

○足高議員

ちょっと追加ね。

ちょっと多分昔のことは覚えてないんですけども、天王寺動物園の入り口はもともとは天王寺側にもあったし、茶臼山にもあったんですよ。僕の小さい時分は茶臼山

側のほうから入ってね、入ったぐらい多分ご存じない、駐車場もあったでしょ、そこから始まってのんですよ。浪速区が最初って。

○河村委員

柵がなかったんですもんね。

○足高議員

ちゃんとその茶臼山まで入り口があったわけ、それが天王寺が頑張ってた理由だと。それが、誰やと言うたらまたややこしいけども、ある日突然やね、天王寺側が全部なくなったと。それをようよう天王寺の皆さんが頑張りはって天王寺側にあいたということ、それが正しい姿だから誤解のないように。

○水谷区長

そうですね、今やっぱ両議員がお話になったことをじっくり聞いてて、やっぱり本当に天王寺公園とかこの動物園、美術館というのはやっぱり本当区民の長年に渡るこれ大きな財産ですからね、だから決してそれを拙速にフリーハンドにいじるという発想じゃなくて、これまでのやっぱ議論経過ちゃんと正しく踏まえる、それこそ今議員がおっしゃったように、昔は柵がなくて自由に入れたっていうところも、知る人じゃないと知らないですからね。長く年月を生きているおられる方でないと知らない事実もあると。そうしたこともつぶさに確認した上で、それでもなお、じゃあこのエリアをどういうふうに活性化していくかという前向きで未来向きの、そういう視点が今後の議論で本当に大切なのかなと思います。

それからちょっと話変わりますけれども、今福島議員も言われたように3月の議会でこの区政会議。今までは規則によってその存立が明記されてたわけですけども、規則よりもさらに一段重い条例のほうで存立が明記されることとなりました。それを受けて、では具体的に区政会議の委員さんたちの任期は何年で、どういう方から何%選ぶとかその細かい規則を今、区長会等で検討しながらまとめているところでございます。

こうした事務作業が終わり次第、また今日お集まりの委員さんにも条例制定前と制定後でこういうことが変わりましたということを、個別などに丁寧にちょっとご説明させていただきたいと思いますので、もうしばらくお待ちいただきたいなというふうに思っております。

それから最後に、やっぱりこの天王寺区の今の戦略会議っていうのは、僕はあんまりそういう自慢するのとか好きじゃないんですけども、これ24区の中で随一だと自負しているんですよ。それはやっぱり僕がすごいからとかそんな全く関係なくて、やっぱり今日なんかも本当に皆さんのご意見を聞いていても皆さんがやっぱりそれぞれのバックグラウンド、専門性やっぱり活かして魂の議論をしてくださってるからだと思うんですね。

本当に越村委員もやっぱり福祉の現場でずっと働いてこられた経験をもとに発言してくださいましたし、田中（誠）委員も本当にこの地域で長年生きてきて、で今もお獣医として区役所の近くで働かれています。そのやっぱり経験知識をもとに発言してくださってますし、出水委員もまた、小さな子どもさんを育てられるお父さんとして、今の子どもにどういう教育が本当に必要なのかっていう観点で魂の言葉を吐いてくださってるなど。だから、それはもう本当に一人一人、天王寺区の僕は財産だと思いますからこの議論をより研磨させて、ここに本当にこれからの民主主義の僕は形があると信じてますんでね、より議論を掘り下げて少しでも、これまでは実現しえなかったことっていうものを実現していきたいなと思います。

そういう意味で、一番初めにこの具体的な形で提案していただいたterakoyaというところには、僕は非常に期待を寄せてます。確かに小さな一歩なのかもしれないですけども、この具体的な実施案見ているとすごい僕はわくわくしますね。やっぱり、小学生とかでも、お父さん、お母さん、先生には言えなくてもじつは自分の頭の中でいろんなことを考えてたり、それをほかの人に発散したい。ほかの人の意見を聞きたいって言ってくすぶってるお子さんとかもいっぱいいると思うんですよ。

そうした子どもたちの発想力とか思考力とかを解放させてあげる議題がまさにこの勉強はなぜするのかとかですね、バリアフリーはどこまで必要かとか根っこの部分の議論だと思うんですね。

だから、こういう場をしっかりとこの区政会議から提案していい形にしていくってことは、僕は本当にこれは天王寺区が今も文教地区ですけれども、本当の意味での文教地区あるいは独立性を持ったその文教都市をめざすうえで、本当に重要だと思いますのでこれからも、そういう思いをみんなで共有して議論していけたらいいのかなと思います。

ただしですね、やっぱり区政会議ですからある意味これは行政を厳しくチェックしていただくというところもこれはもう外してはならないところです。条例化に伴って皆さんのその責任と権限も以前にも増してやっぱり増大する部分もありますから、天王寺区役所がちゃんと仕事しているのかと水谷翔太がちゃんと仕事をしているのかという厳しい観点で、チェックしていただけたらなというふうに思っております。

本日もどうもありがとうございました。

○田中（英俊）議長

それでは本日の議事は以上とさせていただきます。事務局のほうにお戻ししますの
でよろしく。

○事務局

ありがとうございます。熱心なご議論ありがとうございました。

一点ちょっと補足というかご案内なんですが、独居高齢者の見守りサポーターの関係の分でスケジュールとか役割分担の関係で資料のほうをつけさせていただいてるんですが、ちょっとこのスケジュールや役割分担というのは区役所のほうでちょっと作成させていただきましたということを補足させていただきますのと、後、先ほど議長よりご案内ございましたアカペラのイベントのパンフレットをこちらのほうにちょっとありますので、ちょっとご参考にお配りさせていただきたいなというふうに思いま

す。

あとお手元にご意見シートもお配りさせていただいておりますので様式にとらわれ
ませずまたご意見お寄せいただければと思います。

次回の会議議会開催なんですが5月開催を予定しておりますが、また詳しい日程は
また改めて調整させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

本日の資料及び議事録、議事概要ですね、また後日天王寺区のホームページで公開
してまいりたいと思います。また、お配りさせてご案内のほうさせていただきますの
でよろしくお願いいたします。

それでは、以上もちまして天王寺区の区政戦略会議終了いたします。皆さんもどう
もお疲れさまでございました。

—了—